

グループワーク結果まとめ

(1) 実施概要

湖南省第四次地域福祉計画・地域福祉活動計画第2回策定委員会で、湖南省の地域福祉を取り巻く課題（不安に思うこと）、第四次計画において取り組むべきことについて意見交換をするグループワークを実施しました。

参加者：策定委員会委員●名を3グループに分けて実施
 手法：コーディネーター（村田会長）の進行により、付箋を用いた意見出し、グループ内での意見分類、全体共有

(2) 意見まとめ

■課題・不安に思うこと

分野	主な意見
高齢化による影響	高齢化の進行、高齢者の急増
	一人暮らしの方の健康・身体・心の問題、心のふれあいが必要
	食事の準備と料理方法、ゴミ出し、不用品の処理、各種書類（電子化）の対応
買い物・移動手段の確保	買い物、通院の手段がない
	高齢化で交通手段がなくなり、人との交流が減る
	交通・バス等が不便
地域コミュニティ	自治会退会者の急増
	自治会に加入すべきという考え方が根強い
	地域に住むすべての人が加入する地域共同体（区・まち協）との関わりが必要
	グローバル化が進んで来た
つながり・支え合い	支える人材が少ない、地域での支え合いが難しくなっている
	地域の支えあい、地域では、できる事しかできない⇒できる事を実行する
	複合的な課題を抱えた世帯を支える資源、担い手
	近所づきあいがいい、地域でのつながりが希薄
	家族の支え合い、家族機能の脆弱化
人材育成、ボランティア	市・地域・自治会ともに、外国人や住民に対してやってあげている感が強い
	個々人が参加したくなるような人材育成に取り組むことが必要
	コーディネートする人材育成の仕組みが見えない
	コーディネートする人の重要性を理解できているか
	研修会等で前向きでない（仕方なく）参加が多く、研修の意味がない
	ボランティア活動の登録者数が減少している、ボランティアの不足⇒養成の方法？
情報共有	情報の共有不備、地域の個々の情報共有ができていない
	市→区→自治会・健康推進員・民生委員
	個人の技量による取り組みは、人が替わると後戻りする

分野	主な意見
防災	災害時に顔を知らない同士の共助
	地域のつながりがうすいので、災害時等にパニックがおこり機能しないのではないか
	福祉避難所に対する支援⇒避難所運営に対する資材の補助、誰が避難するのか
	かまどベンチを全ての福祉避難所に設置すべき
子ども・子育て	少子化により、まちに子どもの声がしない
	子どもの遊ぶ場所がない、子育てのサポート（地域での）が不十分
	不登校対策が発達課題に特化、偏っている
	貧困家庭の子どもの支援を各福祉施設でできないか
	子どものいじめ、虐待について、関係機関が複雑、わかりにくい。図式で表せないか
コロナ禍	コロナ禍の長期化
	イベントの中止、孤立の増加、人と人のつながりの喪失
	経済低下で貧困の増大
生活環境	地域での環境整備（草刈り等）
	空き家対策⇒空き家バンクは？

■第四次計画に向けて

分野	主な意見
高齢化による影響	2人住まいから1人住まいになった時の対応を行う
	高齢者の生きがいづくりに関する提案ができるようにする
	核家族でなく、同居形態の提案
地域コミュニティ	地域活動、自治会への参加を促進する
	若い年代が気軽に参加できる自治会づくり
	それぞれに合ったコミュニティづくり、自治会に代わるつながる資源、ネット社会に合ったもの
つながり・支え合い	近所との付き合いと助け合い
	話し合いの場を整える
	幅広い年代での公の会議の場（話し合い）
	小グループで話し合う場、小さな集いの場の創設、ミニミニイベントで参加しやすくする
	小さなグループで困り事相談
人材育成、ボランティア	ボランティア担当の増強、ボランティアへの参加促進、ボランティアを増やす呼びかけ（1本釣が必要）
	地域支援者の育成
	目的をはっきりした集まり、募金活動
情報共有	情報網を確立する、情報共有の仕組みづくり
	エリア内での教育分野と福祉分野での交流の推進
相談支援	困りごとの相談体制
	支援の必要な世帯を支える、包括的な支援機能

分野	主な意見
防災	災害時に活かせるメッセージカード（福祉施設で「災害時に〇〇あります。」などの できることメッセージ）
子ども・ 子育て	地域で子どもが全力で遊べる場所、機会の確保
	子どもの居場所づくり⇒「子供食堂」全小学校区で実施
	不登校、ひきこもりは、個々に課題がある福祉的ソーシャルワークの視点にも目を向 ける
	結婚してもらえるような施策の実施
人権・ 多文化共生	人権教育、学校教育において「心のバリアフリー教育」を進める
	人権教育、同和教育も大事だが「滋賀県障害者差別のない共生社会づくり条例」の啓 発を行う
	地域のイベントに外国人が参加しようと思える企画力のある人を育てる（外国人リー ダー、地域のリーダー）
	道路標識、市・公共施設などで外国語の表記をする
行政の取組	計画実施の細分化
	行政支援の応援の拡大

■コーディネーターからの総評

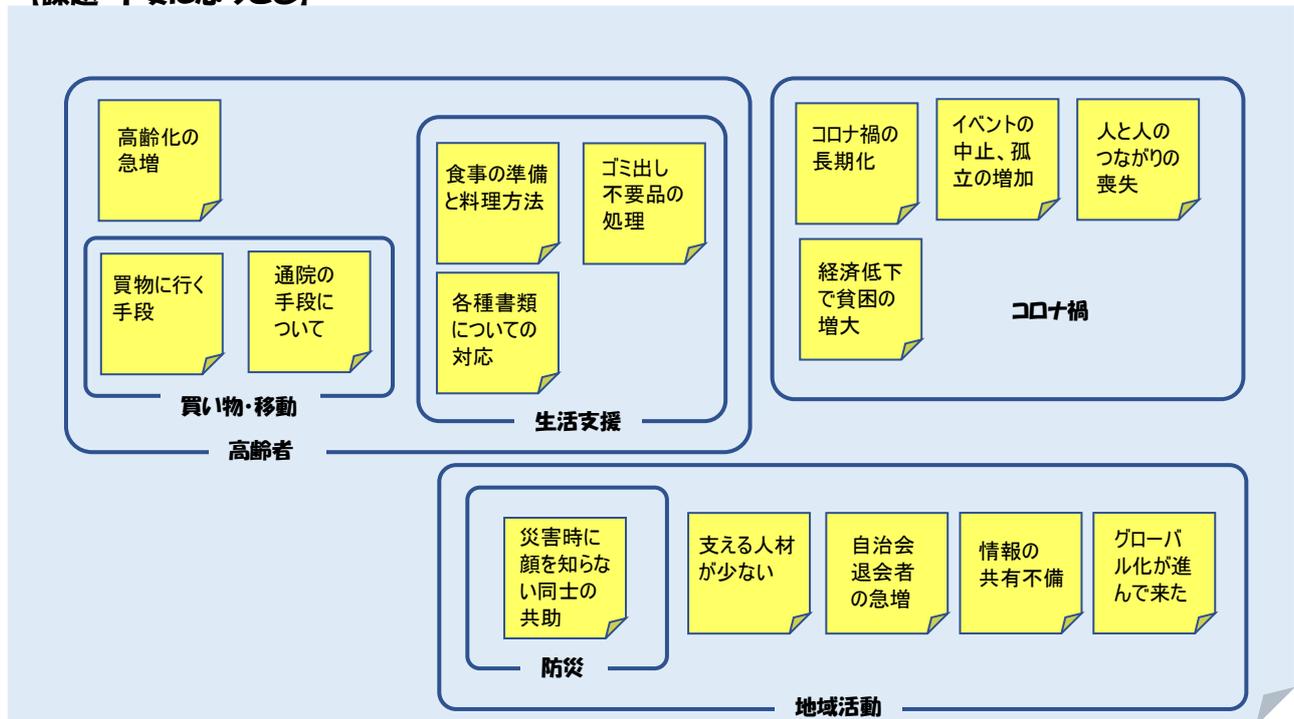
移動手段について多く意見が出ており、民間の企業も含めたアイデアを考え、何とかでき
ないかと感じています。コロナというキーワードも多く、いわゆる非常時に地域を動か
していける仕組みを常に考えておくことが大切となります。

また、目的に合ったコミュニティづくりということで、目的や目標がみえやすく、そこ
にみんなで向かいやすいことがこれからも大切になります。計画等においても、より多く
の人に見てもらいやすい、イメージしやすいキーワードを使うなど工夫していくことが必
要なのではないかと思いました。

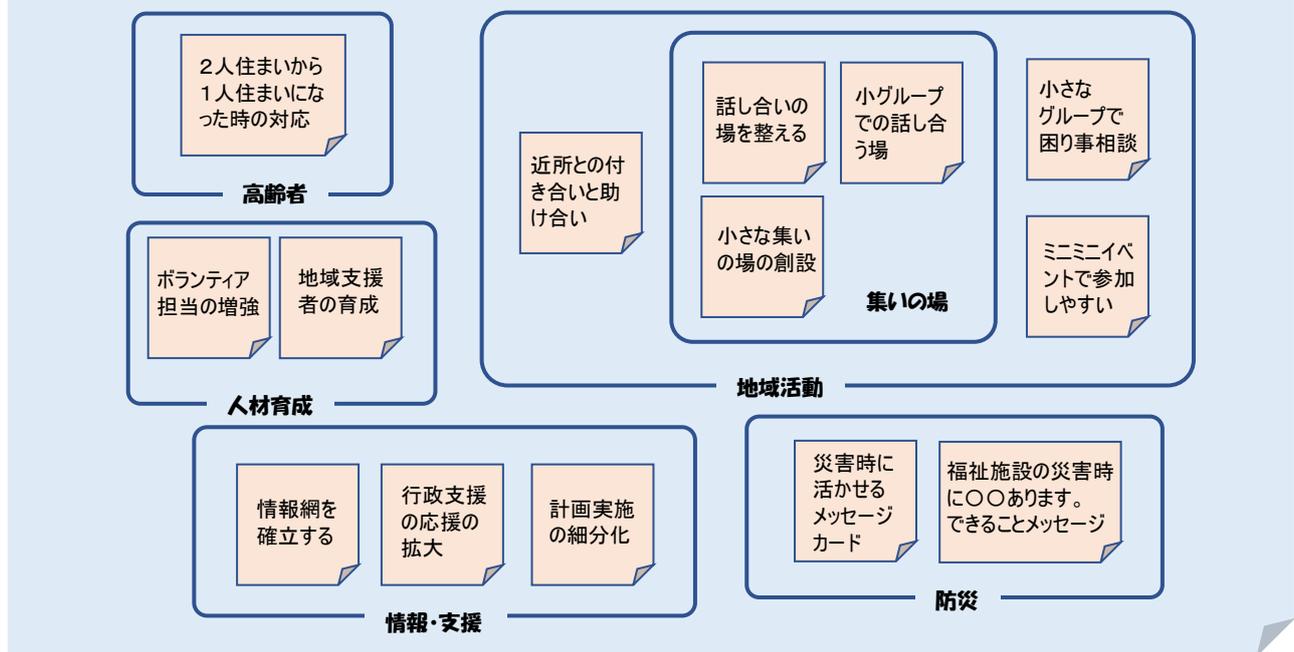
(3) 各グループの意見

■ A グループの意見

【課題・不安に思うこと】



【第4次計画に向けて】

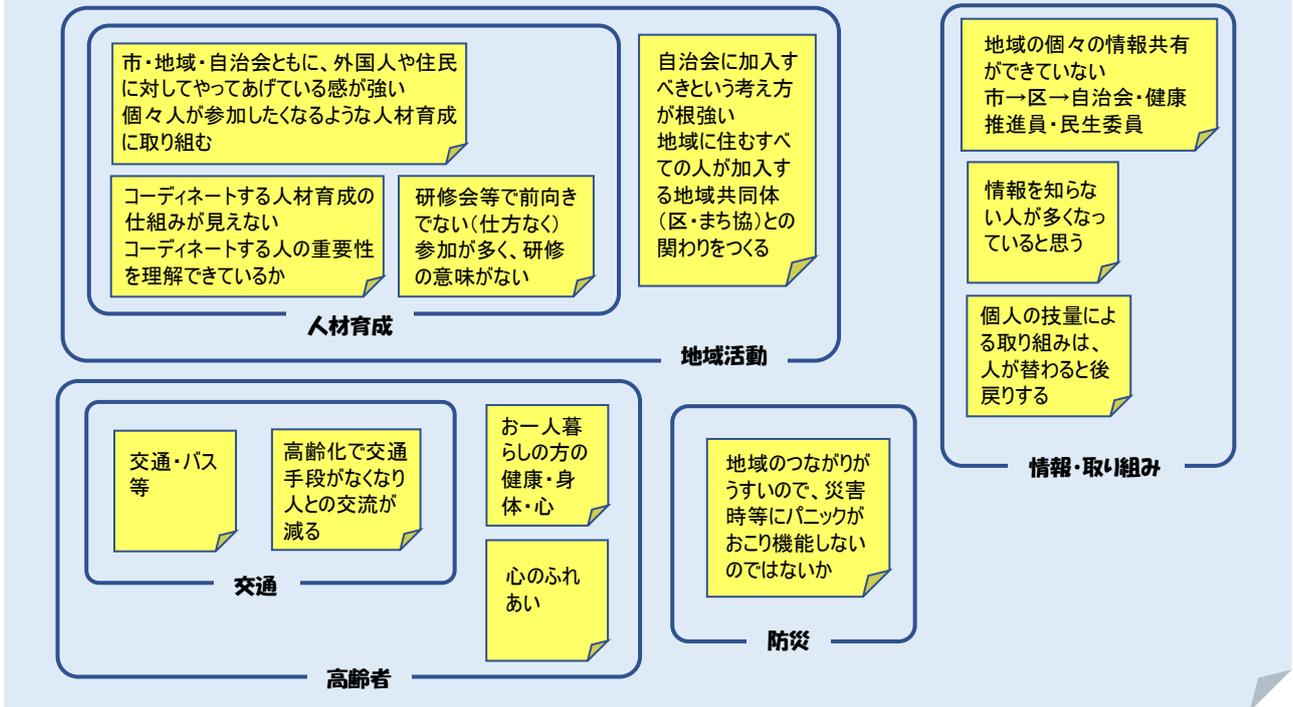


■ コーディネーターからのコメント

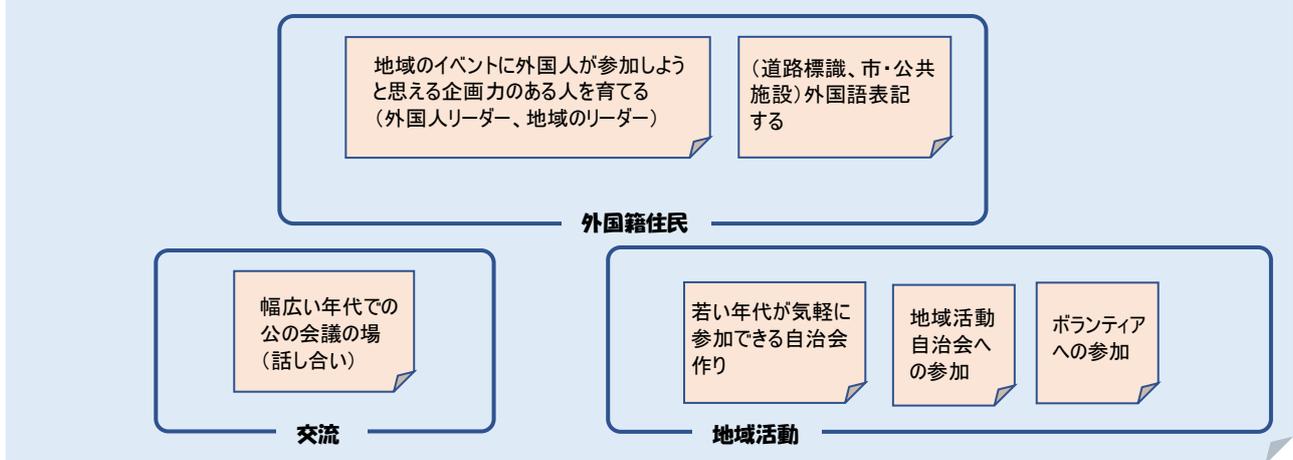
生活者視点での意見が多く、実際に買い物難民という言葉も生まれていますが、これからも買い物・移動手段ということが問題になっていくのではないかと思います。

■B グループの意見

【課題・不安に思うこと】



【第4次計画に向けて】

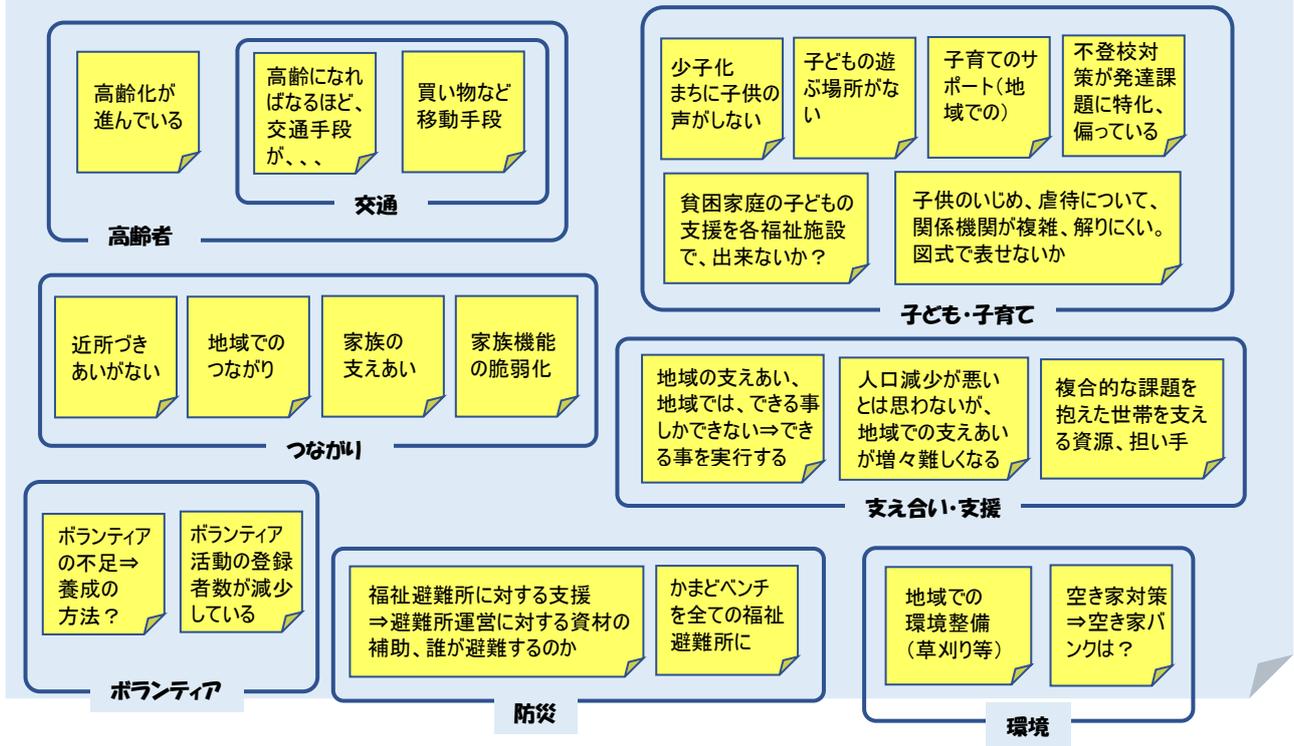


■コーディネーターからのコメント

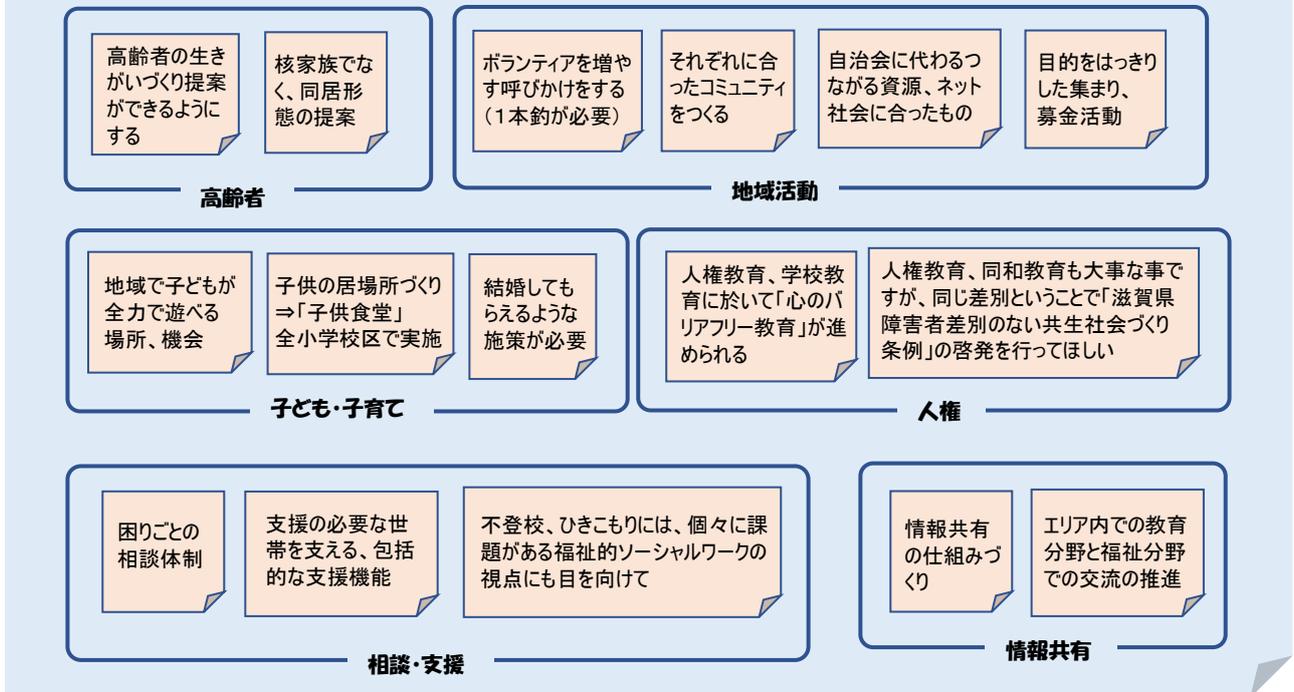
移動手段についての意見やコロナ禍で交流も少なくなっているということも出ており、今の時期だからこそ考えていくべき課題だと思えます。

■C グループの意見

【課題・不安】



【第4次計画に向けて】



■コーディネーターからのコメント

子どもというキーワードが出ており、子どもを地域で育むことなど具体的にどうしていくのか、実践できる内容を地域福祉計画で取り組みにつなげていければと思います。